

- 問1 白河天皇が始めた政治の仕組みにおいて、天皇が位を譲った後に「上皇」として政治を行う体制を何と呼びますか。その名称と目的の組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2023年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
| 1. 摂関政治 — 天皇の外祖父として、幼い天皇に代わって政治を代行するため | 2. 院政 — 摂関家の影響力を抑え、天皇家の家長として自ら実権を握るため | 3. 公武合体 — 朝廷と幕府の結びつきを強め、国の政治を安定させるため | 4. 執権政治 — 将軍の補佐役として、鎌倉幕府の実権を独占するため |
|--|---------------------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|
-
- 問2 日本の歴史における仏教寺院の立地について、最澄が建立した天台宗の本山である延暦寺の所在地を説明したものととして正しいものを選びなさい。 (2021年 長野県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|
| 1. 関東地方の広大な平野の中に位置し、交通の要衝となっている | 2. 東北地方の北部に位置し、当時の政治の中心地から遠く離れている | 3. 近畿地方の中央寄りに位置し、滋賀県と京都府の境界付近にある | 4. 瀬戸内海から九州方面へ向かう海沿いの地域に位置している |
|---------------------------------|-----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|
-
- 問3 平安時代の出来事である「空海による金剛峯寺の建立」「藤原純友の乱」「白河上皇による院政の開始」「平治の乱における源義朝の敗北」について、これらを発生した時期の古いものから順に正しく並べたものはどれですか。 (2020年 京都府公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 空海による金剛峯寺の建立 → 藤原純友の乱 → 白河上皇による院政の開始 → 平治の乱における源義朝の敗北 | 2. 白河上皇による院政の開始 → 空海による金剛峯寺の建立 → 藤原純友の乱 → 平治の乱における源義朝の敗北 | 3. 空海による金剛峯寺の建立 → 白河上皇による院政の開始 → 藤原純友の乱 → 平治の乱における源義朝の敗北 | 4. 藤原純友の乱 → 空海による金剛峯寺の建立 → 白河上皇による院政の開始 → 平治の乱における源義朝の敗北 |
|--|--|--|--|
-
- 問4 藤原氏が政治を行う上で重要な地位となった「摂政」と「関白」の役割の違いについて、正しく説明しているものはどれですか。 (2016年 千葉県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 摂政は京都の朝廷内で貴族を監視し、関白は地方の国司を監督して税の徴収を直接管理した。 | 2. 摂政は天皇が幼少であったり女性であったりする場合に代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を執り行った。 | 3. 摂政は天皇の父が引退した後に就く役職であり、関白は天皇の兄が就く役職であった。 | 4. 摂政は主に儀式や宗教的な行事を取り仕切り、関白は軍事指揮官として全国の武士を統率した。 |
|---|---|--|--|
-
- 問5 平安時代に発達した国風文化の中で、漢字を日本風に簡略化したり、その一部を抜き出したりすることによって作られた、日本語の音を表記するための文字を何というか。 (2023年 熊本県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. ハングル | 2. 甲骨文字 | 3. 万葉仮名 | 4. かな文字 |
|---------|---------|---------|---------|
-
- 問6 平安時代、遣唐使が廃止されるなど対外関係が変化した時期と重なるように、地方では「国司」による統治のあり方が問題となりました。国司が地方政治の混乱を招いた背景やその実態について述べた文として、正しいものを選んでください。 (2024年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 遣唐使の廃止によって外国との貿易が途絶えたため、国司の主な収入源がなくなった。 | 2. 朝廷が地方豪族を国司に任命する方針に切り替えたため、各地で土地争いが激化した。 | 3. 国司が土地の国有化を厳格に進めたことで、自墾地系荘園を所有する農民が反発した。 | 4. 朝廷が徴税の権限を国司に委ねたため、一部の国司が私欲のために過酷な取り立てを行った。 |
|--|--|--|---|
-
- 問7 12世紀後半に武士として初めて太政大臣となり、政治の実権を握った人物が行った経済政策として最も適切なものはどれですか。この人物は、現在の神戸市にあたる場所に港を整備したことで知られています。 (2026年 福島県公立入試 類似)
- | | | | |
|------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 朱印状を発行して東南アジア諸国との貿易を奨励した。 | 2. 大輪田泊を修築し、宋との貿易を積極的に進めて富を蓄えた。 | 3. 勘合を用いて明との貿易を行い、倭寇の取り締まりを強化した。 | 4. 堺や博多の商人に特権を与え、座を廃止して自由な取引を認めた。 |
|------------------------------|---------------------------------|----------------------------------|-----------------------------------|
-
- 問8 平安時代中期、藤原頼通が宇治に平等院鳳凰堂を造営した時期は、藤原氏が天皇の摂政や関白として実権を握る摂関政治が安定していました。しかしその後、平安時代末期になると、天皇が位を退いた後も「上皇」となって政治の実権を握り続けるという、摂関政治とは異なる統治形態が現れました。この統治形態を何といいますか。 (2018年 神奈川県公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|---------|---------|
| 1. 院政 | 2. 親政 | 3. 武家政治 | 4. 執権政治 |
|-------|-------|---------|---------|
-
- 問9 平安時代において、藤原氏が行った摂関政治や平清盛による政治に共通する、権力を掌握するための手法として最も適切なものはどれですか。 (2024年 岩手県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 自分の娘を天皇のきさきとして送り込み、その間に生まれた子が天皇になった際に、外祖父として政治の実権を握る。 | 2. 仏教の力を利用して天皇の権威を否定し、有力な寺院と結びつくことで、僧侶を中心とした新しい政治体制を築く。 | 3. 日宋貿易を独占して得た経済力を背景に、地方の武士団を組織して、朝廷から独立した新しい政府を樹立する。 | 4. 武力によって朝廷を制圧し、天皇を廃して自分自身が新しい天皇として即位することで、独裁的な政治を行う。 |
|--|---|---|---|
-
- 問10 9世紀末に遣唐使が停止された後、日本の風土や生活に合った日本独自の文化である国風文化が栄えました。この時代に漢字を変形させて作られ、『源氏物語』などの文学作品の執筆にも用いられた文字は何ですか。 (2023年 宮崎県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 甲骨文字 | 2. 万葉仮名 | 3. かな文字 | 4. 楔形文字 |
|---------|---------|---------|---------|
-
- 問11 平安時代中期、藤原道長・頼通の親子が約50年間にわたって実権を握った「摂関政治」の仕組みについて説明した文として、最も適切なものを次のの中から選びなさい。 (2022年 愛媛県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 天皇が位を退いて上皇となった後、院庁という役所を開いて、天皇に代わって直接政治を行う体制を整えた。 | 2. 自分の娘を天皇の後（きさき）とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の外祖父（母方の祖父）として勢力をふるった。 | 3. 唐の制度にならって律令を整備し、公地公民の原則に基づき、班田収授法によって全国の土地と人民を直接支配した。 | 4. 地方の武士団を組織して軍事力を背景に朝廷を圧倒し、六波羅探題などの機関を置いて政治の主導権を握った。 |
|--|--|--|---|
-
- 問12 平安時代末期の東北地方における政治情勢と奥州藤原氏の関わりについて述べた文として、正しいものはどれか。 (2026年 和歌山県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|---|--|--|
| 1. 足利氏が源氏の血筋を主張して東北地方の武士をまとめ、平泉を拠点に幕府を開いた。 | 2. 北条氏が執権として実権を握り、平泉に東北地方を統括するための政庁を設置して支配を広げた。 | 3. 藤原清衡が平泉を拠点に陸奥国の支配を確立し、金や馬などの特産品を通じて独自の勢力を築いた。 | 4. 平氏が日宋貿易の拠点を東北に移し、平泉を国際的な貿易港として整備することで富を蓄えた。 |
|--|---|--|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 2 院政 ― 摂関家の影響力を抑え、天皇家の家長として自ら実権を握るため	白河天皇は、幼い皇子を天皇に据えつつ、自らは退位して自由な立場の上皇（院）となり、独自の役所を設けて政治を動かしました。これは、藤原氏が摂政や関白として政治に介入する余地を奪い、天皇の父や祖父が政治の主導権を取り戻すことを目的としていました。
問2	答え 3 近畿地方の中央寄りに位置し、滋賀県と京都府の境界付近にある	延暦寺が置かれた比叡山は、広域的な地域区分では近畿地方に該当します。滋賀県と京都府の県境付近という、当時の都であった平安京から見て北東（鬼門）の方角に位置していたことが、この地に建立された歴史的な要因の一つです。
問3	答え 1 空海による金剛峯寺の建立 → 藤原純友の乱 → 白河上皇による院政の開始 → 平治の乱における源義朝の敗北	平安時代初期の9世紀初め、嵯峨天皇の時代に空海が真言宗を開き、高野山に金剛峯寺を建立しました。その後、10世紀半ばの平安中期には、地方政治の乱れを背景に瀬戸内海で藤原純友の乱が起きました。11世紀末になると、白河上皇が摂関政治を抑えるために院政を開始し、その権力争いの中で武士が中央政治に進出します。そして12世紀半ばの1159年、平治の乱で源義朝が平清盛に敗れたことで、平氏の権力が決定的なものとなりました。
問4	答え 2 摂政は天皇が幼少であったり女性であったりする場合に代わって政務を行い、関白は成人した天皇を補佐して政務を執り行った。	藤原氏は、天皇の成長段階に合わせて役職を使い分けました。天皇がまだ幼く、自身で判断ができない時期には「摂政」として代行し、天皇が成人してからも「関白」として常に天皇のそばで報告を受け、実質的な決定権を握り続けました。これらを合わせて「摂関」と呼びます。
問5	答え 4 かな文字	遣唐使の廃止などを背景に、日本の風土や生活に合わせた「国風文化」が生まれました。その中で、それまで使われていた漢字を崩したり、一部を抽出したりして、日本語特有の響きを自由に書き表せる「かな文字」が考案されました。これにより、人々の感情をきめ細やかに表現することが可能になりました。
問6	答え 4 朝廷が徴税の権限を国司に委ねたため、一部の国司が私欲のために過酷な取り立てを行った。	九世紀後半から十世紀にかけて、政府は戸籍に基づいた従来の徴税が立ち行かなくなったため、国司に対して「徴税の完遂」を条件に大きな権限を与えました。これを利用した国司は、規定以上の税を農民から徴収して蓄財に励むようになり、これに苦しんだ有力農民（田堵）たちが国司の解任を求めて朝廷に訴えるなどの事態が発生しました。この混乱が、自衛手段としての武力の保持、すなわち武士団の形成を促すこととなります。
問7	答え 2 大輪田泊を修築し、宋との貿易を積極的に進めて富を蓄えた。	平清盛は、武士として初めて政権の頂点に立つと、経済基盤を固めるために日宋貿易を推進しました。そのために、現在の神戸市にあたる大輪田泊を大規模に修築し、宋の大型船が停泊できるようにして、宋銭や陶磁器などの輸入を行いました。
問8	答え 1 院政	藤原氏が娘を天皇のきさきにして、生まれた子を天皇に立てることで外戚（母方の親戚）として権力を振るったのが摂関政治です。これに対し、白河天皇が位を譲って上皇となった後も、自身の独自の役所（院庁）を置いて政治を主導したのが院政の始まりです。これにより、藤原氏の影響力を抑え、皇室が主導権を取り戻そうとしました。
問9	答え 1 自分の娘を天皇のきさきとして送り込み、その間に生まれた子が天皇になった際に、外祖父として政治の実権を握る。	藤原氏や平清盛は、天皇との血縁関係を結ぶことで権力を維持しました。藤原道長は娘の彰子を一条天皇のきさきとし、その子が後一条天皇として即位することで外祖父（母方の祖父）となりました。同様に、平清盛も娘の徳子を高倉天皇に入内させ、その間に生まれた安徳天皇を即位させています。このように、天皇の母方の親戚である「外戚」という立場を利用して、政治的な主導権を確保する手法が取られました。
問10	答え 3 かな文字	平安時代には、遣唐使の停止などを背景に日本独自の国風文化が栄えました。この文化の中で、漢字を変形して作られた「かな文字」が普及し、女性を中心とする文学作品などで盛んに使用されました。
問11	答え 2 自分の娘を天皇の後（きさき）とし、その間に生まれた子を次の天皇に立てることで、天皇の外祖父（母方の祖父）として勢力をふるった。	摂関政治は、藤原氏が天皇の「外戚（母方の親戚）」となることで権力を維持した政治形態です。道長などは娘を天皇に嫁がせ、生まれた皇子を天皇に即位させることで、その幼少期に摂政として、成人後には関白として実権を握り続けました。選択肢にある上皇が政治を行うのは「院政」、武家による支配は「武家政治」であり、摂関政治の特徴とは異なります。
問12	答え 3 藤原清衡が平泉を拠点に陸奥国の支配を確立し、金や馬などの特産品を通じて独自の勢力を築いた。	藤原清衡は、前九年の役・後三年の役という大きな戦乱を経て、陸奥国（現在の東北地方の大部分）における支配権を確立しました。平泉は北上川の舟運を利用できる交通の要所であり、この地を拠点に金や名馬を中央の朝廷や平氏に送ることで、政治的な地位と強大な経済力を維持しました。これにより、三代にわたって東北地方に独自の平和な時代をもたらしました。